

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 2月 24日

公表: 令和 年 月 日

事業所名 かすたねっと

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			洗面所の水道の高さが高い。出入りが狭いなど全てがバリアフリーとは言えないため、改善又は工夫が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			環境には気をつけているが、遊び道具や絵本、粗大遊び等々の備品が少ない。あっても劣化している。建物が老朽化している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		個別支援計画になるべく多くの職員に参加してもらうようにしている。	時間がなく、十分ではない。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		面談などで、保護者の意向を聞くようにはしている。	評価表は実施できているが、ハード面は業務改善になかなか繋がりがづらい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価を行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		標準化されたアセスメントツールを使用できる職員がいない。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	必ずではないが、申し送り事項等があれば、口頭で情報共有している。		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必ずは行っていないが、必要な情報や支援の振り返りは必要に応じて行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		支援会議にて関係者や関係機関と連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		支援会議に参加している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		支援会議に医師が参加。月一回の小児科医の施設訪問。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援会議にて情報を共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援会議にて支援内容や小学校への情報共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			来年度は計画的に見学や研修を取り入れていく予定。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノートや口頭、面談などで保護者と共通理解が持てるように話をするようにしている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			ペアレント・トレーニングをできる職員がいない	
保護者への	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者には内容の説明を行っている	ガイドライン全てに沿っている内容ではないため、近付けるようにする。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		個別支援計画作成時に面談を行なうようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者会は開催するが、出席率が悪い為、出席してもらう工夫が必要。

説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年4回のお便り保護者会を適宜行っている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			注意しているが個人名が書かれたファイル等が剥き出して保管されている
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナのため、地域との交流が行えなかった。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			お便りなどで保護者へ周知するなど工夫する。防犯マニュアルはないため、作成の必要あり。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年2回行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		服薬やてんかんの症状については、家人に確認するようにしている。	予防接種については把握していない。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		家族に確認する様にしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例集は作成していないが、報告書はその都度提出している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人の委員会や伝達研修に参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		説明書(同意書)を作成している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。